

2012年 5月10日・「毎日新聞」では

「たくさんのお出逢いのおかげ」

湖西の風土 生き生きと

真田さん 2冊目の詩集を出版

高島市マキノ町中庄の湖畔に住む真田かずこさん（60）が2冊目の詩集「奥琵琶湖の細波^{さざなみ}」を出版した。詩作を始めて15年、湖西に移り住んで5年。自宅前に広がる湖との対話とも言える詩やエッセーには、湖国の風土への感動が素直に生き生きと表現されている。

真田さんは「文学を学んだ訳でもないが、言葉が自分の内側から湧き出してきた」と、京田辺市在住時代を振り返る。同好会の京都詩話会代表も務めた。夫とよく訪れた琵琶湖の景観に引かれ「竹生島と朝日がきれいな」湖西の湖畔に転居。「親切な人たちに囲まれた暮らし」の中で「カニの泡みたいに湧き出す言葉」を書き留めている。詩やエッ

セー「湖畔のくらし」などを綴^{つづ}った季刊小冊子「トンビ」は37号を数える。

07年に第1詩集「あたらしい海」を出版。今回の「奥琵琶湖の細波」は書名の通り、作品の多くが琵琶湖や湖西の風土をモチーフにしている。里山の猿を一人称にした「えんがい」（猿害）、土地の言葉遣いで湖の魚たちに語る「ぎっとまって ききやんせ〜湖^{うみ}中〜」（まあ座って気楽に聞いてね）など、自然界から人間社会を眺めた作品もある。

真田さんはあとがきで「滋賀県には『お出逢^あいする』というすてきな言い方がある。尊敬の念をこめると同時にめぐり逢う意味も含まれ…（本は）たくさんのお出逢いのおかげ」と結んでいる。

と紹介されています。